

【景気の現状判断と今後の見通し】

		2011 /12月	2012/1月	2月	3月	4月
現 状 判 断	景気全体	わが国の経済をみると、海外経済の減速や円高の影響などから、持ち直しの動きが一般している	わが国の経済をみると、海外経済の減速や円高の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている	わが国の経済をみると、海外経済の減速や円高の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。	わが国の経済をみると、持ち直しに向けた動きもみられているが、なお横ばい圏内にある	わが国の経済をみると、なお横ばい圏内にあるが、持ち直しに向かう動きがみられている。
	輸 出			米国ではこのところ改善の動きがみられているが、欧州債務問題や新興国・資源国における既往の金融引き締めの影響などから、海外経済全体としては減速している。輸出や生産は、こうした海外経済の動向や円高の影響などから、引き続き横ばい圏内の動きとなっている。	海外経済は全体としてなお減速した状態から脱していない。輸出や生産は、こうした海外経済の動向や円高の影響などから、引き続き横ばい圏内の動きとなっている。	海外経済は全体としてなお減速した状態から脱していないが、改善の動きもみられている。輸出は、これまでのところ横ばい圏内にとどまっている。国内需要をみると、設備投資は、被災した設備の修復などから、緩やかな増加基調にある。個人消費は、自動車に対する需要刺激策の効果もあって、底堅さを増しているほか、住宅投資も持ち直し傾向にある。公共投資も、ここにきて増加に転じている。以上の内外需要を反映して、生産は、なお横ばい圏内にあるが、持ち直しに向かう動きがみられている。こうしたも
	設備投資	国内需要をみると、設備投資は、被災した設備の修復もあって、緩やかな増加基調にある。個人消費も、底堅く推移している。また、住宅投資は持ち直し傾向にあり、公共投資も下げ止まっている。一方、輸出や生産は、海外経済の減速や円高に加えて、タイの洪水の影響もあって、横ばい圏内の動きとなっている。企業の業況感については、内需関連業種に底堅さがみられるものの、全体としては、改善の動きが鈍化している。	国内需要をみると、設備投資は、被災した設備の修復もあって、緩やかな増加基調にある。個人消費も、底堅く推移している。また、住宅投資は持ち直し傾向にあり、公共投資も下げ止まっている。一方、輸出や生産は、海外経済の減速や円高に加えて、タイの洪水の影響も残るも	国内需要をみると、設備投資は、被災した設備の修復などから、緩やかな増加基調にある。個人消費も、震災後一旦抑制された需要の復元もあって、底堅く推移している。また、住宅投資は持ち直し傾向にあり、公共投資も下げ止まっている。	国内需要をみると、設備投資は、被災した設備の修復などから、緩やかな増加基調にある。個人消費も、自動車に対する需要刺激策の効果もあって、底堅さを増している。また、住宅投資は持ち直し傾向にあり、公共投資は下げ止まっている。この間、生産や公共投資などにも、先行きの持ち直しをうかがわせる動きがみられ始めている。	国内需要をみると、設備投資は、被災した設備の修復などから、緩やかな増加基調にある。個人消費も、自動車に対する需要刺激策の効果もあって、底堅さを増している。また、住宅投資は持ち直し傾向にあり、公共投資もここにきて増加に転じている。以上の内外需要を反映して、生産は、なお横ばい圏内にあるが、持ち直しに向かう動きがみられている。こうしたも
	個人消費					
	住宅投資					
	公共投資					
	生 産					
	雇用・所得環境等					
今後の 景気見通し	先行きのわが国経済は、当面、横ばい圏内の動きになるとみられるが、その後は、新興国・資源国に牽引される形で海外経済の成長率が再び高まることや、震災復興関連の需要が徐々に顕在化していくことなどから、緩やかな回復経路に復していくと考えられる。輸出や生産は、当面、横ばい圏内の動きを続けるとみられるが、その後、海外経済の成長率が高まることなどから、緩やかに増加していくと考えられる。設備投資は、当面、海外経済減速の影響などを受けつつも、被災した設備の修復・建替えもあって、基調的には緩やかな増加を続けると予想される。住宅投資、公共投資は、復興関連需要の顕在化などから、徐々に増加していくと考えられる。個人消費も、引き続き底堅く推移するとみられる。	先行きのわが国経済は、当面、横ばい圏内の動きを続けるとみられるが、その後は、新興国・資源国に牽引される形で海外経済の成長率が再び高まることや、震災復興関連の需要が徐々に顕在化していくことなどから、緩やかな回復経路に復していくと考えられる。輸出や生産は、当面、横ばい圏内の動きを続けるとみられるが、その後、海外経済の成長率が高まることなどから、緩やかに増加していくと考えられる。設備投資は、当面、海外経済減速の影響などを受けつつも、被災した設備の修復・建替えもあって、基調的には緩やかな増加を続けると予想される。住宅投資、公共投資は、復興関連需要の顕在化などから、徐々に増加していくと考えられる。個人消費も、引き続き底堅く推移するとみられる。	先行きのわが国経済は、当面、横ばい圏内の動きを続けるとみられるが、その後は、新興国・資源国に牽引されるかたちで海外経済の成長率が再び高まることや、震災復興関連の需要が徐々に強まっていくことなどから、緩やかな回復経路に復していくと考えられる。輸出や生産は、当面、横ばい圏内の動きを続けるとみられるが、その後、海外経済の成長率が高まることなどから、緩やかに増加していくと考えられる。設備投資は、当面、海外経済減速の影響などを受けつつも、被災した設備の修復・建替えもあって、基調的には緩やかな増加を続けると予想される。住宅投資、公共投資は、復興関連需要の顕在化などから、徐々に増加していくと考えられる。個人消費も、雇用環境が徐々に改善に向かうも	先行きのわが国経済は、新興国・資源国に牽引されるかたちで海外経済の成長率が再び高まり、また、震災復興関連の需要が徐々に強まっていくにつれて、次第に横ばい圏内の動きを脱し、緩やかな回復経路に復していくと考えられる。輸出は、海外経済の成長率が高まることなどから、次第に横ばい圏内の動きを脱し、緩やかに増加していくと考えられる。設備投資は、当面、海外経済減速などの影響も残るものの、被災した設備の修復・建替えもあって、基調的には緩やかな増加を続けると予想される。住宅投資、公共投資は、復興関連需要の顕在化などから、徐々に増加していくと考えられる。個人消費も、雇用環境が徐々に改善に向かうも	先行きのわが国経済は、新興国・資源国に牽引されるかたちで海外経済の成長率が再び高まり、また、震災復興関連の需要が徐々に強まっていくにつれて、緩やかな回復経路に復していくと考えられる。輸出は、海外経済の成長率が高まることなどから、次第に横ばい圏内の動きを脱し、緩やかに増加していくと考えられる。国内需要については、復興関連需要などを背景に、引き続き、公共投資は増加し、住宅投資も持ち直し傾向をたどると考えられる。設備投資は、企業収益が次第に改善するも	

【物価の現状判断と今後の見通し】

		2011 / 12月	2012/1月	2月	3月	4月
現 状 判 断	輸入物 価	3か月前比でみると、国際商品市況が横ばい圏内の動きとなる中、下落幅はやや縮小している	3か月前比でみると、国際商品市況の動きを反映して、横ばい圏内の動きとなっている	3か月前比でみると、国際商品市況の動きを反映して、横ばい圏内の動きとなっている	3か月前比でみると、国際商品市況の動きを反映して、小幅上昇に転じている	3か月前比でみると、国際商品市況の動きを反映して、小幅上昇に転じている
	国内企業 物価	3か月前比をみると、既往の国際商品市況の下落などから、弱含んでいる	3か月前比をみると、既往の国際商品市況の下落などから、弱含んでいる	3か月前比をみると、国際商品市況の動きを反映して、概ね横ばいとなっている	3か月前比をみると、概ね横ばいとなっている	3か月前比をみると、概ね横ばいとなっている
	消費者 物価	前年比は、概ねゼロ%となっている	前年比は、概ねゼロ%となっている	前年比は、概ねゼロ%となっている	前年比は、概ねゼロ%となっている	前年比は、概ねゼロ%となっている
今 後 の 物 価 見 通 し	国内企業 物価	当面、弱含みで推移するとみられる	当面、横ばい圏内で推移するとみられる	当面、横ばい圏内で推移するとみられる	国際商品市況の動きなどを反映して、当面、強含むとみられる	国際商品市況の動きなどを反映して、当面、強含むとみられる
	消費者 物価	消費者物価の前年比は、当面、ゼロ%近傍で推移するとみられる	消費者物価の前年比は、当面、ゼロ%近傍で推移するとみられる。	消費者物価の前年比は、当面、ゼロ%近傍で推移するとみられる	消費者物価の前年比は、当面、ゼロ%近傍で推移するとみられる	消費者物価の前年比は、当面、ゼロ%近傍で推移するとみられる。